The Akita University Library News
No.59/ Oct 2004

図書館だより

秋田大学附属図書館

附属図書館ホームページ
http://www.lib.akita-u.ac.jp/
医学部分館ホームページ
http://libra.med.akita-u.ac.jp/

菅江眞澄の道を辿って12　能代　小友堰を眺む
ここをむかしは野代とかきつれど、近き世となりて能代とかいあらためしといへり…。
野と代るの文字ふさわしからじとて…、 くにのかみより仰わたりて、能代とはかく。
（雪の道奥　雪の出羽路）
秋田大学名誉教授 山本穆彦氏：画

目　次

<<巻頭言>>　図書館の活用について ……川上　洵……2
シリーズ　心に残る一冊(24) ……日高　水穂……3
シリーズ　心に残る一冊(25) ……志立　正知……4
シリーズ　心に残る一冊(26) ……浅沼　義博……5
本学教官等著作寄贈図書 ……5
研修報告　/　新人紹介……6
本学学生・院生の皆さんへ /　学生アルバイトの声 ……7
文献検索ニュース（CiNii　/　STN EASY） ……8
医学部分館コーナー（情報スペース）……9
開館カレンダー　/ 編集後記……10

《巻頭言》

図書館の活用について

川上　　洵

大学の使命は、教育・研究・社会貢献です。研究は、知の創造ともいわれ、これを推進し、優れた成果を世界に発信することは大学人のつとめであり生きがいです。研究の過程は、1.調査研究、2.研究テーマの決定、3.実験・解析、4.考察、5.論文作成とたどり研究成果が得られます。これらの過程は、果樹の育成にたとえられ、1.土つくり、2.播種(はしゅ)、3.発芽、4.立花、5.収穫の過程を経て成果となります。1〜5の過程は、どの過程も重要ですが、意思決定とルーチンワークの観点からすると、特にどのような研究を行うか、何の種をまくかが、結果に大きく影響を及ぼします。テーマがよければ、良い成果が次から次へと短期間のうちに得られ、一方、テーマの選択が適切でないと、手間、ひま、研究費をつぎ込んでも研究が思うように進みません。

それではテーマの良否は、何に左右されるのか？　偏(ひとえ)に、調査であると思います。広い意味でのマーケッティングです。世界各地で開催される国際会議に出席する目的のひとつは、研究開発動向の調査が含まれています。また、日常の研究生活の中で、第一として挙げられるのが論文を読むことになります。これは、私が大学院生時代に指導教授から徹底して仕込まれました。最新の動きは新刊図書では遅く、最新の論文からわかります。特に、外国雑誌、論文集をマークするために毎月、学科図書室、学部図書館に通い自分の行なっている研究に係わる論文に目を通しました。論文が英文の場合は、何とか進みますが、ドイツ語となるとなかなか進行せず、まえがきと結論は辞書により読み、図表と数式を中心にトレースしていたように思います。

このような文献調査を徹底的に行うと、やがて、世界の誰が何を研究しているか、ある研究分野の第一人者は誰か、そしていま、もっとも関心が寄せられている課題は何かなど、世界の情勢が分かってきます。そして、必要な研究は何か？これから伸びる分野はどこかがつかめるようになります。

昭和49年私が秋田に赴任した当時、流通機構は今日のように完備していませんでした。したがって、定期購読されていない論文集を読みたい時は、アクセスしてから入手まで3〜4週かかるのは当たり前で、手に入ったときは、何の論文であったかを忘れるほど時間がかかったように思います。著書の場合も、手に入れるまでやはり時間を要します。

そこで、せめて図書は、身近においておきたいと思い、随分図書を購入いたしました。当時の教授の先生が講座費のバランスから、少しセーブするように注意されたくらいです。そうしているうちに、専門の「コンクリート構造」に係る著書が徐々に整備されていきました。在校生及び卒業生から専門書に関して問い合わせを受けることもあります。確かに古いもの、新刊書そして洋書を問わず、専門書が研究室内にぎっしり詰まっていますから、町の書店の専門書コーナーより格段に充実しています。これらの著書は、先人の知恵、成果の集積であり、調査時は勿論のこと、実験・解析や考察に大いに役に立ちます。

私の経験ですが、興味ある英語論文を読み、その参考文献から著書を知り、その著書に感動し、その著者との交流が始まり、やがて翻訳を依頼され、日本語で出版したことも一つの仕事となりました。

研究者と論文・著書は、切っても切れない関係にあります。その周辺で支援機能をはたしているのが、ライブラリーです。図書館もITをフル活用する時代になり、最新の情報、欲しい文献が即時に手に入るようになりました。

どのように図書館を利用・活用するかが、これからの研究の推進の鍵であると思われます。

（かわかみ　まこと　工学資源学部長・教授）

『ソシュールの思想』

丸山圭三郎 著
岩波書店　1981年

日高　水穂

学生の頃、ともに美術部の友人とよく夜を徹して語らった。語り合った内容はほとんど忘れてしまったが、一つ、記憶に残っているのは、次の問いである。

「無人島で一人きりで生きることになったとしても、絵を描くかどうか。」

その友人は「描く」と答えた。彼女にとって、「絵を描く」という行為は、息をしたり食事をするのと同じで、生きる行為の一部であるとのことであった。

一方、私は、「描かない」と答えた。私の「絵」は、人に見せるためのもの、コミュニケーションの手段の一つだった。私のこの答えは、しかし、「確固とした自分を持つこと」が正しいことと思っていた当時の私には、ふがいないものに思えた。

このとき感じた「ふがいなさ」は、「確固とした自分というものは本当にあるのか」という問いにつながり、その後も反芻し続けた。その答えを、ソシュール言語学から得たように思う。

私が私であることを保証するのは、他者との関係においてである。社会と切り離されたところにある「私」に意味づけは必要ない。それは、言語記号が記号同士の張り合い関係においてのみ、意味領域を決定できるのと同じことである。

ソシュールを知る前の私は、「アカ」には「赤」を意味する何かの必然があるはずだ――私が私であることには確固とした必然があるはずだ――という素朴な認識しか持たなかったので、「言語記号の恣意性」や「価値の体系としての言語」といったソシュール言語学の概念を理解するにつけ、目の覚めるようなすっきりした気持ちを味わった。「確固とした自分」という幻想からも解放された。

現代言語学の祖とも言われるスイスの言語学者ソシュールを紹介する研究書は多いが、日本におけるソシュール研究の第一人者であった丸山氏のこの著作は、 冒頭の伝記の部分で、まず読ませる。

早熟の天才ぶりを発揮したソシュールが、後半生にかたくなな沈黙に陥るのはなぜか。よく知られているように、ソシュールの思想を後世に伝える代表的な著作『一般言語学講義』は、ジュネーヴ大学でのソシュールの講義を受講者のノートから再現したものであり、ソシュール自身の手によるものではない。丸山氏はこの「沈黙」について、「言語学からの逃避どころかむしろ一歩も二歩も進めたその掘り下げであり、《記号学》の名で知られる新しい文化学への道の手がかりを求めての、苦しい探求の姿にほかならなかった」と言う。

本書は、ときに「誤読」による批判でゆがめられることもあったソシュールの思想の神髄を、ソシュール自身の手稿などの原資料の解読も踏まえて描き出す。その展開は、知的な謎解きの興奮に満ちている。

記号間の張り合い関係によって規定される記号の価値――他者との関係によって規定される「私」――これは、人間の主体性の否定ではなく、むしろまったく逆である。「記号間の張り合い関係」自体は所与ではなく「恣意的」なのであり、この「関係」を生み出していくダイナミズムは、人間にゆだねられている。他者との関係の中で、より周りを生かし、自らが生かされる関係を構築していくことが、私たちには十分に可能なのである。

丸山氏は、ソシュールの思想の底流にあるのは、「構造の産物である人間の真の自由とは何か」というテーマだと述べる。丸山氏を介して、こうした「苦悩するソシュール」に出会えたことは、私にはたいへん示唆的なことであった。

（ひだか　みずほ　教育文化学部助教授）

この図書は　“ 本館1F開架 ” にあります。(801-Ma59)

『中世のうわさ
―情報伝達のしくみ』

酒井紀美著
吉川弘文館　1997年

志立　正知

８月２０日に秋田県を襲った台風１５号は、秋田市をはじめとして各地に停電などの被害をもたらした。大学も、自宅も２０日夜まで停電が復旧せず、翌日に学会発表を控え準備に追われていた私は、いらいらしながら一日を過ごす羽目になった。水が出ないのも困ったことではあったが、何よりテレビもパソコンも動かず（したがってネットも使えず）、唯一の情報源は古い携帯ラジオのみ。

そこから伝えられるのが、復旧の見通しが全く立っておらず、今しばらくがまんして欲しい、ということばかり。情報からの疎外感を感じながら、逆に、自分が日頃いかに視覚的メディアに情報を依存していたかを改めて自覚した一日でもあった。なお、車で市中を走ってみると、自宅や大学から数百メートルしか離れていない区域には電気がともり、店が何事もないかのように営業しているのも（おかげで無事食糧にありついた）、身体を使って情報を得るという教訓を与えてくれた。

そんな一日、薄暗い部屋でふと思い出して読み返してみたのが、この一冊であった。

本書は、それこそ電気などを利用したマスメディアが全く存在しなかった中世において、情報がいかに社会に伝達されていくのか、その過程において「うわさ」がいかに重要な役割を果たしていたのかを解き明かしてくれる。文字史料である文書・記録類にあらわれる「うわさ」を意味する言葉（「風聞（ふうぶん）」「口遊（くゆう）」「人口」「雑説（ぞうせつ）」「巷説（こうせつ）」など）を手掛りに、中世における音声言語としての「うわさ」の実態を解明してゆく手法は、学問的にも堅実でしかも鮮やかである。結果として浮かび上がってくる伝達範囲や速度は、ときに現代人の想像を超えるほどのものがあり、また影響力の大きさ故に幕府などの支配者は、「流言」「風聞」などに神経を尖らせていたようである。その流通手段は様々であるが、たとえば「落首」「高札」などは、30年ほど前までの大学ではしばしば目にしたビラや中国の壁新聞などを彷彿とさせる。同時に、こうした「うわさ」の発生・流通が、「見る」「聞く」「語る」あるいは伝達の過程などで、常に身体性を伴っている点も、テレビ・ネットなど媒体ではつい忘れられがちな側面であろう。

考えてみれば、私が専門としている中世文学の中にも、「うわさ」は様々な形で影を落している。『平家物語』には、平清盛が「禿髪（かむろ）」という少年たちに市中を徘徊させ、「うわさ」をコントロールしようとしたことが記されている。説話などはまさに「うわさ話」の集積である。テキスト研究の場では、ともすれば先行文献との書承的関係を中心に考えがちであるが、それとは別に、説話の内容が実際にはいかに流通し人口に膾炙（かいしゃ）されていくのかという問題にも、もっと目を向けるべきかも知れない。流通するからこそ繰り返し書き留められ、書き留められたところから再び流通するという循環構造の意味を考え直すきっかけとなった。「うわさ」の重層構造、その流通範囲・社会階層性についての指摘なども、それらを「史料／資料」として扱う際の問題点を意識させられるものであった。

今日、「うわさ」は「情報」という名の仮面をかぶって、メディアやネットといったかつてとは異なる媒体によって、かつて以上の影響力を振うようになっている。本書は、私にとって、「うわさ」「情報」といったものの本質について、原点に立ち返って考え直してみるきっかけを与えてくれた一冊であった。

（しだち　まさとも　教育文化学部教授）

この図書は現在注文中です

『狭き門』

世界文学全集 33

アンドレ・ジイド
新庄嘉章訳
河出書房　1962年

浅沼　義博

私は戦後のベビーブームの真只中の昭和24年生まれである。中学時代も高校時代も生徒数急増のため、郊外に新しく建てられた校舎で、各3回生、2回生として過ごした。当然グランドは整備されておらず、体育の授業は主に校庭の草むしりや石拾いであった。また他の授業でも教科書の最後までいったものはほとんどなく、受験校とはほど遠いものであった。しかし、先生はみな闊達であり、生徒達も自由で、私は好きなだけいわゆるガリ勉を自学自習でやっていた。しかし、その私が高校時代に特に気になっていたのが、この『狭き門』であった。「力をつくして狭き門より入れ」（ルカ伝第十三章第二十四節）というのがどういう意味かよく解らなかった。人間努力をすれば天国へ行ける、だから頑張ろう、位に考えていたかと思う。

当時、この本を読みたかったのは山々だが、小説の世界に嵌まると受験勉強が疎かになるのは目に見えていたので、自分で読むのを封印していた。従って、大学に入学した私があまり授業には行かず、下宿に籠って手当たりしだいに本を読んで、精神の飢えを満たそうとしたのは当然のことであった。

ここで、私ごときがこの小説の解説をする愚は避ける。ジイドはいうまでもなく20世紀の大作家である。そして、この小説は、キリスト教徒であり、性倒錯者であり、共産主義者であり、ノーベル文学賞受賞者である偉大な人間の代表作のひとつである。受験勉強に没頭してきた、酒も煙草も女もギャンブルも知らない田舎出の若者にとって、この小説は十分に刺激的であった。大体において、天国に到る道が、愛する人と二人並んでは通れないほどに狭い道だといわれて、驚き、不安になり、何が真実か真剣に悩んだものであった。

テレビゲームでドラゴンクエストの冒険の世界に遊ぶのを悪いとはいわないが、そんな暇があったら、図書館に行って世界文学全集のうちの何冊かを読んで、古今の“精神の解放者”と対話する方がずっと面白いと思うが、いかがであろうか？

（あさぬま よしひろ　医学部保健学科教授）

この図書は“本館第2書庫3F”にあります。
（908-Se22-v.33）

本学教官等著作寄贈図書（平成１６年3月～平成１６年8月受入れ）

本学教官が著し、寄贈いただいたものです。ありがとうございます。

石川三佐男編著	中国楚辞学１～４	学苑出版社　2002～2004
石川三佐男共著	中日「書籍之路」研究	北京図書館出版社　2003
外池智著	昭和初期における郷土教育の施策と実践に関する研究	ＮＳＫ出版　2004
幸野稔著	My Approaches to Oral Communication	幸野稔　2004
日高水穂分担執筆	日本海沿岸の地域特性とことば	桂書房　2004
本荘市教育委員会編	本荘・由利のことばっこ（編集委員：佐藤稔・日高水穂）	秋田文化出版　2004
志立正知著	「平家物語」語り本の方法と位相	汲古書院　2004
吉永慎二郎著	戦国思想史研究	朋友書店　2004
小山研二先生遺稿集編集委員会編	詩心翠：小山研二先生遺稿集	秋田大学医学部第一外科同門会　2004
清水浩志郎著	高齢者・障害者のための都市・交通計画	山海堂　2004
西川竜二共著	エクセルギーと環境の理論	北斗出版　2004
佐藤祐一分担執筆	Advanced Materials in Electronics 2004	Research Signpost　2004

※　図書館では本学教官の著作物（単独著書、共著書、編著書、訳書、分担執筆、学位論文）を、積極的に収集し、利用に供しています。出版の折には御寄贈くださいますようお願いします。

●研修報告●

第11回医学図書館員基礎研修会に参加して

茶屋　容子

8月4日から三日間、東京大学医学図書館を会場として行われた、日本医学図書館協会主催の基礎研修会に参加しました。この研修会は、全国の医学図書館に勤務する業務経験の浅い職員を対象としたもので、図書館勤務二年目の私にとって、基本的な知識を幅広く得ることのできる良い機会となりました。

研修会は大きく分けて三つに構成され、初めに慶應義塾大学の糸賀教授から「これからの医学図書館(員)の新しい役割」といったテーマで基調講演がありました。引き続き、図書館の中心的な業務である図書・雑誌の受入・整理、相互貸借、電子ジャーナル、そして情報検索などに関する各講義が行われ、そして、一日の終わりには一時間半ほどのグループ討議の時間が設けられていました。

日頃なかなか他大学の図書館員と接する機会がなかった私にとって、有意義な情報交換の場になったのがグループ討議の時間です。参加者が1グループ7、8名に分かれ日常業務における疑問点や問題点などについて話し合ったのですが、他館の現状や取り組みがわかり参考になりました。また、参加者の経験年数が同じくらいということもあって、提供される話題が実感として理解できるものが多く、皆同じようなことを疑問に感じているのだなあと、親近感をおぼえたりもしました。

各講義は毎日の業務にすぐに役立ちそうな基本的知識、実践的情報を得ることができる内容でしたが、基調講演は広い視野でこれからの図書館について考えさせられるものでした。中でも印象に残ったのが「図書館の他へのアピールの必要性」についての話です。図書館は外部から評価されるためにも、もっとアピールする能力が求められるといった内容で、この競争の時代において大学が生き残っていくために図書館としてどのようなことができるのかといった具体的な提案もあり興味深かったです。

このように、この三日間の講習会で得たことは様々ですが、これからの仕事に役立てていきたいと思います。

（ちゃや　ようこ　医学部分館図書係）

新人紹介インタビュー

加賀屋　愛（かがや　あい）
医学部分館図書係

Q　自己紹介をしてください。
A　４月に学務部学務課から異動になりました加賀屋です。

Q　現在行っている仕事内容について教えてください。
A　文献複写の受付を担当しています。

Q　図書館で働いてみてどうですか？
A　図書館での仕事は、今回が初めてなので分からない事も多いため、利用者の皆さんにご迷惑をおかけしないように、日々あらゆる努力や勉強が必要だと実感しております。

Q　実際に働く前と後で、イメージと違っていた点などはありましたか？
A　図書館の仕事は、どうしても図書の貸し出しに代表されるカウンター業務を思い浮かべるのですが、開架に至るまでにいろんな過程がある事を知りました。その他、自分の担当している文献複写を含め電子的なツールへの対処や製本作業など、あらためて図書館の仕事の奥深さを感じています。

Q　最後にひと言お願いします。
A　利用者の皆さんに、適確に対応できるように頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本学学生・院生の皆さんへ

1. 平成16年度後期「ネットワーク時代の情報リテラシー」授業があります。

・インターネット時代の情報活用能力(literacy)を培うための講義が
図書館員の支援により行われます。

期　日▶10月6日(水)～11月24日(水)の毎週水曜日5-6時限
会　場▶情報処理センター第一端末室

2. 図書館で購入して欲しい図書のリクエストが出来ます。

・学習、研究やレポート・論文・卒論作成のためにあって欲しい、
或いは図書館に備え付けるべきと思われる図書があればリクエストしてください。

方法▶1. リクエスト用紙で
館内にリクエスト用紙とBOXが設置されています。
⇒ 必要事項を記入し投函してください。

2. 図書館HPのリクエストフォームで
本館、分館のHPにリクエスト記入ページがあります。
⇒ 必要事項を記入し送信してください。

購入・利用まで▶
・リクエスト分は学生用図書館資料選定委員（教官）が検討し、承認されれば
・発注→納品→蔵書登録→リクエスト者への連絡　で利用できるようになります。

※　リクエスト図書の選定状況などはHPでご覧になれます。
※　リクエスト図書の条件：原則として価格の低廉なものや、趣味、娯楽的なものは除きます。

アルバイト学生の声

石黒　真美

医学部分館の学生アルバイトは、今年から新採用となった四人を含め、全部で七人います。平日の夜間は職員さんと共に、休日は学生が二人ずつ組んで仕事をしています。私も今年の四月からアルバイトを始め、今までに約五ヶ月間仕事をさせていただきました。当初は慣れないこともあり、返却された本を書架へ戻すのに時間がかかったり、利用者カードなどの申請の手続きに手間取ったりしていました。

しかし、わからないことがある度に職員さんやバイトの先輩方が優しく丁寧に教えてくださって、今ではようやく最低限必要なことはできるようになりました。

とはいえ休日に新人同士で組んで仕事をするときは、利用者のニーズに応えられないことがあったらどうしようという思いに駆られ、常に緊張しながらカウンターに座っています。

分館はみなさんがご存知のとおり、医学部キャンパスの敷地内にあり、そこにある書物のほとんどが医学に関連したものばかりです。雑誌も海外で刊行されたものがたくさんありますし、医学科や医療技術短期大学部の歴代の先輩方の卒業論文や他大学の紀要もあり、論文の参考にするだけでなく、普段の勉強にもとても役立つと思います。

先日、カウンター係をやっていたら、工学資源学部の方々から文献検索を依頼されたことがありました。工学資源学部の学生さんは、普段は分館の方へ来ることがめったにないと思っていたので、とても驚いたのと同時に、利用してくださったことをとても嬉しく思いました。

また、みなさんが一所懸命勉強している姿を見ると、自分も頑張ろうという気持ちが湧いてきて、とても励みになります。

図書館でのバイトで利用者の方々や仕事から得られるものは、私にとって貴重なものばかりです。私も少しでもみなさんのお役に立てるように、書籍のことや複雑な文献検索の仕方などを学び、きちんと理解していきたいと思います。これからもどうぞよろしくお願い致します。

（いしぐろ まみ　医学部保健学科2年）

「研究紀要ポータル」が「論文情報ナビゲータCiNii（サイニィ）」に移行しました

このたび国立情報学研究所(NII)のCiNii (Citation Information by NII)に全国大学図書館が協力作成している国内大学紀要類データベース「研究紀要ポータル」コンテンツが移行し統合されました。これにより国内の学協会誌や大学紀要の論文情報が、一度に各種キーワードで検索することができるようになり一層便利になりました。（下図参照）

検索でヒットした論文は書誌情報（論題、著者、収録誌情報など）のほか引用情報（論文間の相互関係）も調べることができ、論文全文がその場で読めるものもあります。

図書館HPからNDL-OPAC（国立国会図書館雑誌記事索引）やJ-STAGEとあわせてご利用ください。

URL:http://ci.nii.ac.jp

STN-EASYを導入しました

STN International はCAS(Chemical Abstracts Service)、JST（Japan Science and Technology)、FIZ-Karlsruhe共同運用の国際的科学技術情報ネットワークで世界の約250のデータベースが収録されています。

STN-EASYはそのうち主要な約100のデータベース（CA、INSPECほか）が日本語メニューで利用できるものです。また無料デモで試用もできます。

利用者は校費利用ができる教職員・院生が対象となります。図書館で代行検索を行いますので検索希望の方はカウンターへお出でください。

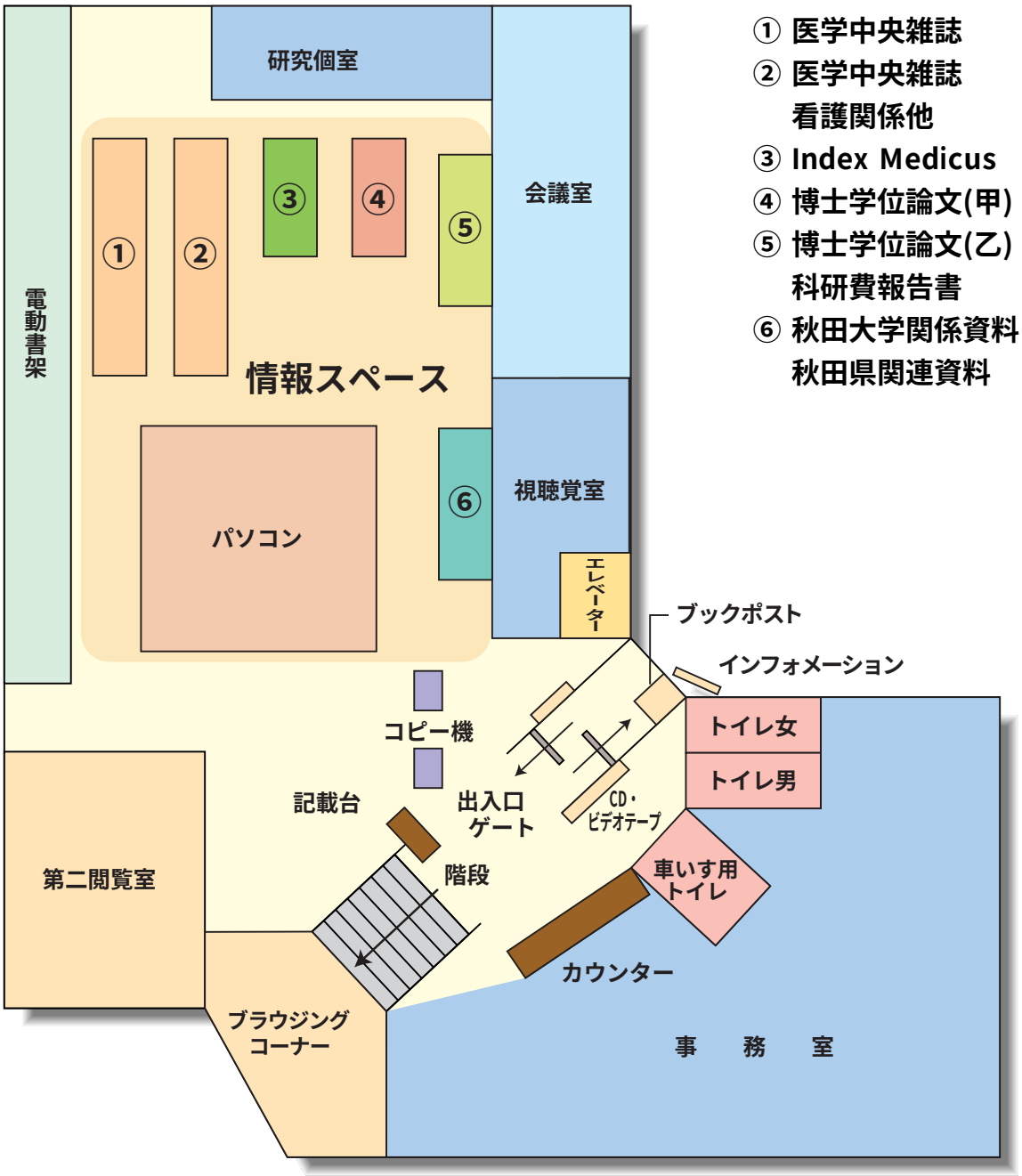
利用可能データベースや料金など詳細については図書館本館HPからご覧ください。

医学部分館コーナー

新しい名称は「情報スペース」です

分館1階に以前からあった二次資料コーナーに、このたび新たに秋田大学関係・秋田県関係資料を移設しました。さらに、パソコンを設置してある情報検索コーナーも含めた一帯を「情報スペース」と名付けました。パソコンや冊子体の資料を使用して様々な情報を得られる空間という意味です。

学内蔵書検索システム（OPAC）で検索した際に、所在が「医分館1Ｆ情報スペース」と表示される資料はこちら(下図参照)にあります。



① 医学中央雑誌
② 医学中央雑誌
看護関係他
③ Index Medicus
④ 博士学位論文(甲)
⑤ 博士学位論文(乙)
科研費報告書
⑥ 秋田大学関係資料
秋田県関連資料

平成16年度秋田大学附属図書館開館カレンダー

[2004.10～2005.3]

本館

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	27	29	30
31						

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2005.1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2005.2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2005.3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

date 平日 8:30～20:00　date 土曜・日曜・休日 9:00～17:00　*date* 長期休業期間 8:30～17:00　date 休館

分館

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	27	29	30
31						

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2005.1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2005.2月

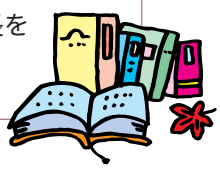
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

2005.3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

編集後記

今回は、『読書の秋』にちなみ
「心に残る一冊」特集としました。
ぜひ、皆さんも虫の声を聴きながら、
大好きな本を片手に秋の夜長を
愉しんでください。



図書館だより 第59号

2004年 10 月 1 日発行

編　集　秋田大学附属図書館出版物編集委員会
発行者　秋田大学附属図書館

〒010-8502 秋田市手形学園町１－１
TEL 本館018-889-2279 分館018-884-6052
FAX 本館018-832-4917 分館018-884-6252

E-mail： 本館 riyo@lib.akita-u.ac.jp
分館 medlib@lib.akita-u.ac.jp